

「人間教育学研究」執筆要領

平成 16 年 3 月 15 日編集委員会決定

改正 平成 26 年 12 月 1 日

最近改正 平成 28 年 8 月

令和 3 年 4 月

令和 8 年 1 月

1. 執筆者は、原稿の区分を明記して投稿する。但し、原稿内容から適当と認められる場合、研究誌『人間教育学研究』編集委員会（以下、委員会）の判断において掲載区分の変更を依頼することがある。

<表 原稿区分の概要>

	和文文字数 【頁数】	キーワード	文献数	英文タイトル	英文要旨
論文・総説	20000 字以内 【12 頁以内】	5 語以内	10～50 程度	要	200 語程度
研究ノート・実践報告	12000 字以内 【7 頁以内】	5 語以内	10～20 程度	要	200 語程度

* 文字数上限には、図表、引用文献を含む。

* 文字数については、委員会の判断により、その増減等が認められる場合がある。

認められない場合、超過ページ数の印刷料金は著者負担とする（投稿規定 12 条）。

2. 投稿手続き

- (1) 投稿しようとする者は、執筆要領を厳守の上、所定の期日までに次の書類データを委員会指定のメールアドレスに提出するものとする。
- ① 投稿申込書（Word ファイル） 1 部
 - ② 投稿前チェックリスト（Word ファイル） 1 部
 - ③ 完成原稿（原本） 各 1 部（Word, PDF ファイル）
 - ④ 審査用原稿（著者名・所属機関、及び謝辞を除いたもの） 各 1 部（Word, PDF ファイル）
- なお、同一号に投稿する件数は、筆頭著者 1 人につき 1 編とする。
共著の場合で、筆頭著者でなければ、この限りでない。
- (2) 提出された原稿について、本要領の諸事項に従ったものであるかどうか委員会が点検を行った結果、形式不備による原稿の修正・再提出の求めがあったときは、著者は直ちに形式を修正した原稿（Word および PDF ファイル）を提出するものとする。
- (3) 委員会が原稿を受け付けた日をもって原稿の受付の日付とする。また、委員会がレフェリーによる論文審査をもとに掲載を認めた日付をもって、その論文の受理の日付とする。
- (4) 提出された原稿の原本は、掲載、不掲載を問わず返却しない。

3. 著者による校正は、原則として初校のみとし、誤植の修正に限る。校正の際の書き加え、書き改めは原則として認めない。なお、図を修正しなければならないときは、原図を著者の責任において修正し、委員会に送付する。
4. 投稿原稿は、和文又は英文によるものとし、PCを用いて作成したものとする。
また、原稿の作成に当たっては原稿フォーマットを必ず参照するものとする。
5. 原稿枚数等及び論文の体裁は次によるものとする。

(1) 和文・英文論文共通事項

- ・用紙は、A4 判縦置き、横書きとする。ただし、和文論文で表記上特に必要な場合は、縦書き（この場合も A4 判縦置き）とすることができる。
- ・原稿枚数（図版、注、文献等含む）は、1 ページ当たりの文字数・段組・書体ポイント数に従った上で、原則として 12 ページ以内とし、ページ下中央部にページ番号を印字する。
- ・表題中に (1) (その 1) 等の続報論文を想定する旨の表記は行わない。
- ・原稿第 1 ページの表題下に、著者の所属を和文と英文で書く。この場合、大学教員は大学名、大学院生（研究生を含む）は研究科名、学校教諭等は学校名等を書く。大学の非常勤の勤務先を所属機関として掲載する際は、当該期間の承諾を得る。

【記載例】

大学院生の場合 → ○○大学大学院△△研究科

(graduate school of △△, ○○University)

大学教員の場合 → ○○大学 (○○University)

- ・論文中（注、文献を含む）に著者本人の著による文献等を表記する際、著者名は、「筆者」「拙稿」等とせず、著者本人の名で表記する。
- ・英文要旨は 200 語程度、キーワードは 3 語以上 5 語以内とする。

(2) 和文論文

- ・本文、注、文献のページは 43 文字×41 行（1 頁分に相当、明朝体 10.5 ポイント）の横 1 段組とし、上下左右の余白はそれぞれ 30mm, 25mm, 25 mm, 25mm 程度とする。
- ・注については、原則として文末脚注とする。
- ・書体は、見出しは MS ゴシック体 10.5 ポイント、本文は MS 明朝体 10.5 ポイントを標準とする。英語及び数値のフォントは century とする。タイトルは MS 明朝体 18 ポイント、サブタイトルは MS 明朝体 14 ポイント、氏名は MS 明朝体 12 ポイント、所属 MS 明朝体 10 ポイントとする。英語表記のタイトル・氏名・所属機関は century10 ポイントとする。英文要旨およびキーワードは century 10 ポイントとする。また、注、引用・参考文献は、見出しはゴシック体 10.5 ポイント、本文は MS 明朝体 10 ポイントとする。
- ・原稿第 1 頁に和文表題、英文表題、和文著者名、和文所属、英文著者名、英文所属、英文要旨、英文キーワードを書き、キーワードの次行から本文、注及び文献の順で書く。
- ・英文要旨については、英語を母語とする者の校閲を経る。
- ・本文は、書き出し及び改行後の書き出し部分を 1 コマ空け、読点は「,」とし、句点は「。」とする。（縦書きの場合は、読点は「,」とする。）
- ・2 桁以上の数字は半角文字、アルファベットは半角を基本とするが、略号等は全角も可とする。

- ・カタカナは全角とする。

(3) 英文論文

- ・本文，注，文献のページは，行数 41 行程度の 1 段組とし，上下左右の余白はそれぞれ 30mm, 25mm, 25 mm, 25mm 程度とする。
- ・書体は，本文は century11 ポイントを標準とする。タイトル・サブタイトルは century14 ポイント，所属・作者は century 10.5 ポイント，キーワードのタイトルはゴシック体 9 ポイント，キーワード・要旨本文は century 10.5 ポイントとする。見出しはゴシック 10.5 ポイント（太字にしない）とし，注，引用・参考文献は century 10 ポイントとする。
- ・原稿第 1 ページに英文表題，英文著者名，和文表題，和文著者名（著者が外国人の場合は英文のまま表記），英文要旨，英文キーワードを書き，キーワードの次行から本文，注及び文献の順で書く。
- ・論文は，英語を母語とする者（論文中の専門用語を理解し得る者であることが望ましい）の校閲を経る。

3. 注及び文献は，原則としてレイアウト例を参照し，論文末尾にそれぞれ別にまとめる。

①注記は，補足説明とし，本文中の該当箇所に，注 1，注 2…の肩番号をつけ，論文末尾に番号順に記載する。

②引用文献は，本文中で引用・参照されている文献のみとし，アルファベット順に記載する。

なお，欧文（ローマ字）誌・書名は，イタリックとする。また，著者が複数の場合は，その全員を記載する。その際，著者名と著者名の間は，カンマ [,] でつなぐ。

【雑誌論文の場合の記載例】

鈴木一郎 (2000). 総合学習における教育実践学的存在論 総合学習, 11 (4), 38-39.

James, M. (2004). Japanese Education, *Journal of Education*, 16 (20), 58-59.

【書籍の場合の記載例】

田中太郎 (1998). 図で読むスクールカウンセリング ミノルタ書房

Deci, E. L., & Ryan, R. M. (Eds.) (2002). *Handbook of self-determination research*.

Rochester, NY: University of Rochester Press.

4. 図，表，写真図版等は，本文中の該当箇所の刷り上がりをイメージした位置に，鮮明に識別できる大きさで，以下の様式により挿入する。

- ・図(写真図版を含む)は，図 1 (Fig. 1)，図 2 (Fig.2)，…，のように，表は，表 1 (Table1)，表 2 (Table2)，…のように通し番号をつける。
- ・図の番号及び見出しは，図の下に記入し，表の番号及び見出しは，表の上に記入する。
- ・図，表，写真図版等の出典は，オリジナルの場合を除き，論文末尾に通し番号順にまとめ，文献の記載例を参考に明記する。

【記載例】 ※出典が著書の場合

図 4 平山礼二『日本画の世界』求龍書店. p.48. 1986

- ・写真図版を含め原稿は白黒印刷とする。
- ・図，表，写真図版の大きさは，刷り上がり 1 ページ以下を原則とする。
- ・図，表中の文字の大きさは，レイアウト原稿中で最小 9 ポイントとする。